

ちよつといひ話

～喜び合う～

万人の労苦に感謝して食事をし、頂ける生命にも感謝し、日に一度は家族揃って食事を取り、神仏、先祖に挨拶出来れば基礎造りの第一歩になります。

「万人の喜びを我が事の様に喜び、万人の悲しみを我が悲しみとしたい」と、佛は手を差し伸べて下さいます。日々繰り返される喜びや悲しみには複雑な問題が隠されています。一寸した事で免れた事故、反対に、間が悪く遭遇してしまう事故。病気をしても治る人、治らぬ人、病気しない人、勉強しても出来ない人、それ程しなくても出来る人、一見不公平に思えますが佛の目では喜怒哀楽、全て平等なのだと思います。私たちの生命は目には見えない大きな佛力に作用されているとしか思えません。その一つのバイオリズムは先祖が行った事績であり、それが血統となって受け継がれて出てくるのでしょう。先祖の追善供養は此の事実から行われて来たのでしょう。此の事から人正道を守って生活された先祖を持つ子孫が幸せになれるのは当然な事です。悪因悪果、善因善果、佛の教えのとおりです。子々孫々に幸せの道標を継承させる事が家門の繁栄に国家の安泰に寄与する事間違いない。私事ですこうさいしゅうやくなんが寛容な人生を送れば最高ではなかろうか、広濟衆厄難

善入院油掛地藏尊